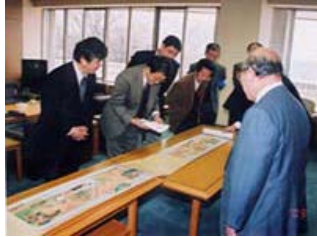


高大連携始まる 川崎高校、生田東高校と相互交流



▲川崎高校と調印(右側は出牛学長)



▲生田東高校との調印後、「七夕草紙」を閲覧



▲サポーターの説明を聞く高校生

高校と大学間における教育交流として「高大連携」の動きが全国的に広がっている中、本学ではこのほど県立川崎高校(畠山利子校長)と生田東高校(栗下清校長)の両校と幅広い相互交流を目的とした「教育交流に関する研究協定」に調印した。

主な教育交流の内容は、高校生が大学の授業を聴講生として受講するほか、教育実習先としての協力、長期にわたりさまざまな教育活動に参加する、いわゆる「教職版インターンシップ」(川崎高校)や、高校教員が大学生に基礎科目の補習授業を行うなど、従来の枠を越えた取り組みに注目が集まっている。

3月5日、生田キャンパスで行われた川崎高校との調印の様子は同校にインターネット生中継され、出牛正芳学長が「学問的な関心を高めて、将来を見据えた学部選びに役立ててください」と生徒たちに呼びかけた。生田東高校との調印は同18日に行われた。

初年度は、低年次の科目を中心に79講座を開放した結果、両高校から5科目15人の希望があった。大学では成績評価は行わないが、高校では校外学習として単位が認定される。大学での授業のほか、生活面等を手助けするサポーター(本学学生)をつけるなど、きめ細やかな受け入れ体制が用意されている。

4月9日に開かれたサポーターとの顔合わせを兼ねたガイダンス説明会で受講生は「せっかくのチャンスなので、一つでも多くのことを学びたいです。早く大学に

慣れさせたい」と目を輝かせていた。

本学では今後も『社会知性の開発』拠点として開かれた大学を目指し、近隣の高校とさらに連携を広げていく準備をしている。

[4月15日/ニュース専修1面]